

風の出口・キッチンへ

玄関から入った空気はキッチン横の中庭から出ていく。

風の散歩道 一個室2から一

共用部にあふれた個人の趣味スペースが見える。トップライトから光が入る。

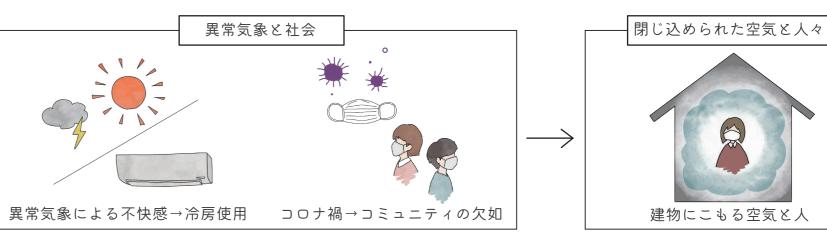
風の入口・玄関から一

玄関から入る空気とともに人々の暮らしが展開される。

#### |01||背景 -閉じ込める空気と人々-

近年,大雨や猛暑,暖冬などの異常気象により,私たちは住宅により快適性を求めるようになった。さら に日本は温暖湿潤気候にあり,異常気象に加えて<mark>湿気</mark>による不快感が続き,冷房が不可欠である。よって 建物の中には空気が閉じ込められ、内部結露などの心配もある。

さらに昨今では新型コロナウイルスの流行によって換気や空気の入れ替えへの重要性を感じるとともに、 人々の営みが密閉されたように感じる。この異常気象とコロナ禍によって建物の中に空気と人々が閉じ込 められている。



## |02| 対峙するもの -湿気とコミュニティー

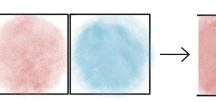
そこで対峙するものを「<mark>湿気</mark>」と「コミュニティ」とし,現在の 不安定な気候と社会の中で生きていくための建築を提案する。



#### | 03 | 境界 - 閉じ込める境界ではなく流れる境界-

さて、「湿気」と対峙する際に<mark>境界</mark>となるものは<mark>建物その</mark> ものである。建物がなければ湿気は生まれないのだから、 対峙するものを湿気だとするならば,湿気と人間の境界 にあるものは建物そのものである。

私は湿気と対峙するため,建物という境界そのものを空 気の通り道として設計しなおす必要があると考える。 空気を「閉じ込める」境界から,外から内へ「流れる」 境界に変え、その空気の流れの中で人々のコミュニティ を活発にするシェアハウスを提案する。



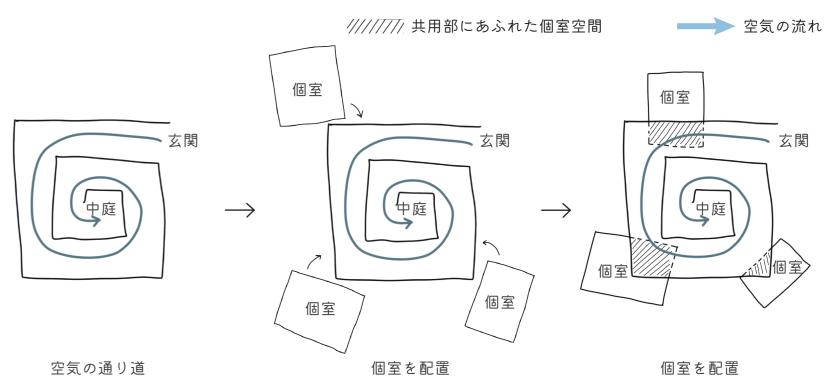


流れる境界

閉じ込める境界

### | 04 | 手法 - 空気の流れに沿う暮らし-

空気の流れをつくる渦巻き状の平面計画とする。玄関から入った空気が中央の中庭から抜ける。この渦巻 き状の計画に3人の住人の個室を設ける。渦巻き状の空気の通り道にぶつかった個室部分は壁を取り払い、 床面のテクスチャを残し、共用部での個室的利用ができるようにする。



玄関から中庭までの空気の流れの中で人々の営みがつくられる。閉じ込められる境界から空気も暮らしも 流れる境界に変化する。

# 05 断面計画

